

機械器具 09
診断用画像処理装置
一般医療機器

販売名: デジタルラジオグラフィー AeroDR SYSTEM 2A

【形状・構造および原理】

1. 構成

デジタルラジオグラフィー AeroDR SYSTEM 2A (以下本装置という) は、以下より構成され、各構成品は、注文及び修理交換のため単品にて販売されることがあります。

2. 本装置の基本構成

- AeroDR パネル
- 画像処理コントローラー

(1) AeroDR パネルの基本構成

- AeroDR パネル 1台

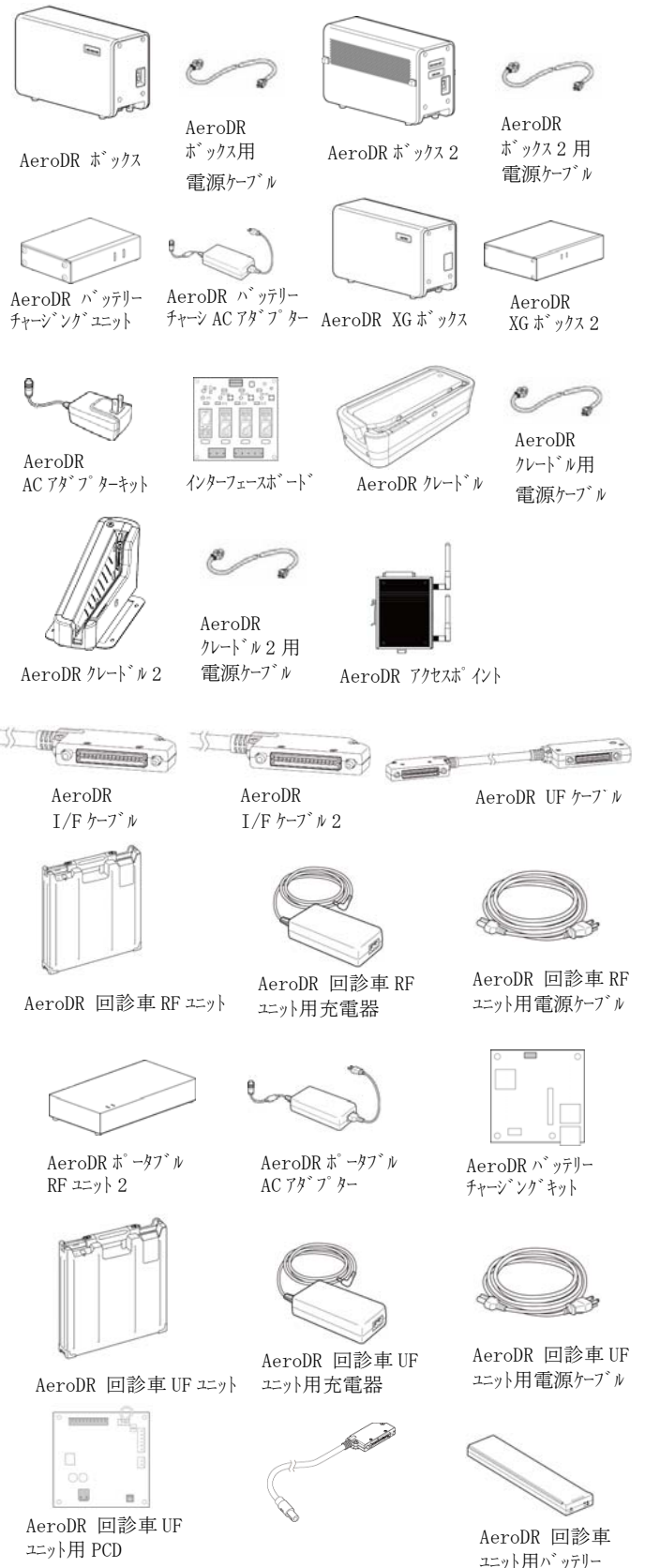
(2) 画像処理コントローラーの基本構成

- パーソナルコンピューター 1台
- キーボード 1台
- マウス 1台
- ディスプレイ 1台



3. 本装置のオプション構成

- AeroDR ボックス 1台
- AeroDR ボックス用電源ケーブル 1台
- AeroDR ボックス2 1台
- AeroDR ボックス2用電源ケーブル 1台
- AeroDR バッテリーチャージングユニット 1台
- AeroDR バッテリーチャージングACアダプター 1台
- AeroDR XG ボックス 1台
- AeroDR XG ボックス2 1台または複数台
- AeroDR AC アダプターキット 1台または複数台
- インターフェースボード 1台または複数台
- AeroDR クレードル 1台
- AeroDR クレードル用電源ケーブル 1台
- AeroDR クレードル2 1台
- AeroDR クレードル2用電源ケーブル 1台
- AeroDR アクセスポイント 1台
- AeroDR I/F ケーブル 1台または複数台
- AeroDR I/F ケーブル2 1台
- AeroDR UF ケーブル 1台または複数台
- AeroDR 回診車 RF ユニット 1台
- AeroDR 回診車 RF ユニット用充電器 2台
- AeroDR 回診車 RF ユニット用電源ケーブル 2台
- AeroDR ポータブル RF ユニット2 1台
- AeroDR ポータブル AC アダプター 1台
- AeroDR バッテリーチャージングキット 1台
- AeroDR 回診車 UF ユニット 1台
- AeroDR 回診車 UF ユニット用充電器 1台または複数台
- AeroDR 回診車 UF ユニット用電源ケーブル 1台または複数台
- AeroDR 回診車 UF ユニット用 PCD 1台
- AeroDR 回診車 UF ユニット用 PCD パネル充電ケーブル 1台
- AeroDR 回診車ユニット用バッテリー 1台または複数台



取扱説明書を必ずご参照ください。

注意)

- ・画像処理コントローラーの基本構成部品、および AeroDR アクセサリーは汎用品のため、写真と異なる機種に予告なく変更する場合があります。また、画像処理コントローラーの基本構成部品は一体型の場合があります。
- ・これらの構成部品のうち、画像処理コントローラー、AeroDR バッテリーチャージングユニット、AeroDR 回診車 RF ユニット、AeroDR ポータブル RF ユニット、AeroDR 回診車 UF ユニット、AeroDR 回診車 UF ユニット用 PCD、AeroDR 回診車ユニット用バッテリーおよびこれらの製品に付属するオプションについては患者環境外で使用されます。

4. 電気的定格

(1) パーソナルコンピューター(キーボード、マウス含む)

定格電圧	AC100V
交流・直流別	交流
周波数	50 / 60Hz
電源入力	1000VA
機器の分類	電撃に対する保護の形式：クラス I 機器 電撃に対する保護の程度：装着部なし

(2) ディスプレイ

定格電圧	AC100V
交流・直流別	交流
周波数	50 / 60Hz
電源入力	200VA
機器の分類	電撃に対する保護の形式：クラス I 機器 電撃に対する保護の程度：装着部なし

(3) AeroDR ボックス (AeroDR パネル及びオプション含む)

定格電圧	AC100V
交流・直流別	交流
周波数	50 / 60Hz
電源入力	160VA
機器の分類	電撃に対する保護の形式：クラス I 機器 電撃に対する保護の程度：装着部あり (B 型装着部)

(4) AeroDR ボックス 2 (AeroDR パネル及びオプション含む)

定格電圧	AC100V
交流・直流別	交流
周波数	50 / 60Hz
電源入力	160VA
機器の分類	電撃に対する保護の形式：クラス I 機器 電撃に対する保護の程度：装着部あり (B 型装着部)

(5) Aero XG ボックス 2 (AC アダプター使用時)

定格電圧	AC100V
交流・直流別	交流
周波数	50 / 60Hz
電源入力	72VA
機器の分類	電撃に対する保護の形式：クラス II 機器 電撃に対する保護の程度：装着部なし

(6) AeroDR バッテリーチャージングユニット

定格電圧	AC100V
交流・直流別	交流
周波数	50 / 60Hz
電源入力	168VA
機器の分類	電撃に対する保護の形式：クラス II 機器 電撃に対する保護の程度：装着部なし

(7) AeroDR クレードル

定格電圧	AC100V
交流・直流別	交流
周波数	50 / 60Hz
電源入力	180VA

機器の分類	電撃に対する保護の形式：クラス I 機器 電撃に対する保護の程度：装着部なし
-------	---

(8) AeroDR クレードル 2

定格電圧	AC100V
交流・直流別	交流
周波数	50 / 60Hz
電源入力	180VA
機器の分類	電撃に対する保護の形式：クラス I 機器 電撃に対する保護の程度：装着部なし

(9) AeroDR 回診車 RF ユニット

定格電圧	AC100V
交流・直流別	交流
周波数	50 / 60Hz
電源入力	432VA × 2 (AeroDR 回診車ユニット用 バッテリー2 個使用)
機器の分類	使用時 — 内部電源機器 充電時 — 電撃に対する保護の形式 ：クラス II 機器 電撃に対する保護の程度：装着部なし

(10) AeroDR ポータブル RF ユニット 2

定格電圧	AC100V
交流・直流別	交流
周波数	50 / 60Hz
電源入力	150VA
機器の分類	電撃に対する保護の形式：クラス II 機器 電撃に対する保護の程度：装着部なし

(11) AeroDR 回診車 UF ユニット

定格電圧	AC100V
交流・直流別	交流
周波数	50 / 60Hz
電源入力	432VA (通常時) 432VA × 2 (パネル充電オプション使用時)
機器の分類	使用時 — 内部電源機器 充電時 — 電撃に対する保護の形式 ：クラス II 機器 電撃に対する保護の程度：装着部なし

※パーソナルコンピューターおよびディスプレイは汎用品のため、消費電力、機器の分類が異なることがあります。

5. 動作原理および各ユニットの機能

本装置は、シンチレータを内蔵し、これにより入射 X 線を光に変換して、さらにその光をセンサーによって光電変換して得られた電荷を X 線画像情報として蓄積し、これを読み取り画像データとして表示する事を目的とした画像読取システムです。

(1) 前処理

外部装置である X 線発生源に対向して AeroDR パネルを設置し、AeroDR パネルのセンサーに被写体の X 線透過画像情報を蓄積します。

撮影時の照射条件のデータは X 線装置から出力され、画像処理コントローラーのパーソナルコンピューターで受信します。

(2) ステップ 1

AeroDR パネルのセンサーに蓄積された被写体の X 線画像情報を読み取り、デジタル信号(画像データ)に変換し、画像処理コントローラーのパーソナルコンピューターに転送します。

(3) ステップ 2

画像処理コントローラーのパーソナルコンピューターでは、デジタル信号(画像データ)に変換された被写体の X 線画像情報の画像処理を行い、ディスプレイに表示させます。

さらに、外部装置である放射線情報システム、オーダー入

力装置、画像ファイリング装置、画像記録装置、画像表示装置、サーバーなどに転送することができます。

【操作方法又は使用方法等】

1. X線曝射連動モードおよびX線曝射非連動モード

(1) 使用前

①電源オン前のチェック

- 電源オン前に、電源ケーブル、AeroDR ボックス/AeroDR ボックス 2 とパーソナルコンピューターとの通信ケーブル、および AeroDR ボックス/AeroDR ボックス 2 と AeroDR パネルとの AeroDR I/F ケーブルが正しく接続されているかどうかを確認する。

②立上げ動作

- AeroDR ボックス/AeroDR ボックス 2 を使う場合、電源スイッチをオンにする。
- AeroDR ポータブル RF ユニット 2、または AeroDR バッテリーチャージングユニットの AC アダプターを接続し、電源をオンにする。
- パーソナルコンピューターの電源スイッチをオンにする。
- AeroDR パネルの電源スイッチをオンにする。
- AeroDR クレードルの電源ケーブルをコンセントに接続、または AeroDR クレードル 2 の電源スイッチをオンにする。

(2) 使用中(操作方法)

- AeroDR ボックス/AeroDR ボックス 2 のパワーLED が点灯しているのを確認する。
- 無線接続で AeroDR クレードルまたは AeroDR クレードル 2 に AeroDR パネルが挿入されている場合は、これを取り出す。有線接続の場合は、AeroDR パネルの接続コネクタに AeroDR I/F ケーブルがしっかりと接続されていることを確認する。
- AeroDR パネルのステータス LED が遅い点滅していることを確認する。
- AeroDR パネルのセンサーから画像データを読み取られる。読み取られた画像は、デジタルフィルター処理、画像ムラ補正処理などの画像処理を行った後に、パーソナルコンピューターに転送される。
- パーソナルコンピューターは転送された画像データを保管するとともに必要な画像処理を行い、その情報を患者データ、照射条件データなどと共にディスプレイに表示する。
- AeroDR パネルのデータ転送終了後ステータス LED が遅い点滅し、次の撮影が受付可能状態となる。
- 撮影した画像データや患者データ、照射条件データなどは、外部装置に転送することができる。

(3) 終了

- AeroDR クレードルの電源ケーブルをコンセントから抜く、または AeroDR クレードル 2 の電源スイッチをオフにする。
- AeroDR パネルの電源スイッチをオフにする。
- パーソナルコンピューターの電源スイッチをオフにする。
- AeroDR ポータブル RF ユニット 2、または AeroDR バッテリーチャージングユニットの電源をオフし、AC アダプターをコンセントから抜く。
- AeroDR ボックス/AeroDR ボックス 2 の電源スイッチをオフにする。

(4) 緊急時の対応

- 電源スイッチをオフにする。

2. X線曝射非連動(回診)モード

およびX線曝射連動(回診)モード

(1) 使用前

①電源オン前のチェック

- 電源オン前に、AeroDR 回診車 UF ユニットまたは AeroDR 回診車 RF ユニットとパーソナルコンピューターとの通信ケーブルが正しく接続されているかどうかを確認する。

②立上げ動作

- AeroDR 回診車 UF ユニット、または AeroDR 回診車 RF ユニットの電源スイッチをオンにする。
- パーソナルコンピューターの電源スイッチをオンにする。
- AeroDR パネルの電源スイッチをオンにする。
- AeroDR クレードルの電源ケーブルをコンセントに接続、または AeroDR クレードル 2 の電源スイッチをオンにする。

(2) 使用中(操作方法)

- AeroDR 回診車 UF ユニットまたは AeroDR 回診車 RF ユニットのパワーLED が点灯しているのを確認する。
- パネル充電ケーブルが AeroDR パネルに接続されている場合は、これを取り外す。
- AeroDR クレードル/AeroDR クレードル 2 に AeroDR パネルが挿入されている場合は、これを取り出す。
- AeroDR パネルのステータス LED が遅い点滅していることを確認する。
- AeroDR パネルのセンサーから画像データを読み取られる。読み取られた画像は、デジタルフィルター処理、画像ムラ補正処理などの画像処理を行った後に、パーソナルコンピューターに転送される。
- パーソナルコンピューターは転送された画像データを保管するとともに必要な画像処理を行い、その情報を患者データ、照射条件データなどと共にディスプレイに表示する。
- AeroDR パネルのデータ転送終了後ステータス LED が遅い点滅し、次の撮影が受付可能状態となる。
- 撮影した画像データや患者データ、照射条件データなどは、外部装置に転送することができる。

(3) 終了

- AeroDR クレードルの電源ケーブルをコンセントから抜く、または AeroDR クレードル 2 の電源スイッチをオフにする。
- AeroDR パネルの電源スイッチをオフにする。
- パーソナルコンピューターの電源スイッチをオフにする。
- AeroDR 回診車 RF ユニットまたは AeroDR 回診車 UF ユニットの電源スイッチをオフにする。

(4) 緊急時の対応

- 電源スイッチをオフにする。

【使用上の注意】

1. 基本的な注意

- AeroDR パネル、AeroDR ボックス、AeroDR ボックス 2、AeroDR XG ボックス、AeroDR XG ボックス 2、インターフェースボード、AeroDR クレードル、AeroDR クレードル 2、AeroDR アクセスポイント、AeroDR I/F ケーブル、AeroDR I/F ケーブル 2、AeroDR UF ケーブルは患者環境内の使用に適している。(AeroDR 回診車 RF ユニット、AeroDR ポータブル RF ユニット 2、AeroDR 回診車 UF ユニット、AeroDR 回診車ユニット用バッテリー、画像処理コントローラーに使用しているパーソナルコンピューターは患者環境内の使用に適していない)
- 本装置を使用する前に、機器が正常に作動することを確認すること。
- 本装置に不具合が発生した場合は、電源を切り、「故障中」等の適切な表示を行い、最寄の弊社サービス窓口ご連絡すること。
- 本装置は防爆型ではないので、装置の近くで可燃性および爆発性の気体を使用しないこと。
- AeroDR パネルは精密機器のため、落とす、ぶつけるなどの強い衝撃や過大な荷重を与えると、故障する恐れがあるため注意すること。
- 本装置を使用するときは次のことに注意すること。
 - AeroDR パネルおよび本装置を落下させるなどの強い衝撃や過大な荷重はかけないこと。
 - AeroDR パネルに加わる荷重範囲を守ること。
 - 分解、改造しないこと。
 - 弊社以外から購入した機器を接続しないこと。

- ・システム動作中に電源スイッチのオフ、電源ケーブルの引き抜きを行わないこと。
 - ・AeroDR I/F ケーブル、AeroDR I/F ケーブル 2、AeroDR UF ケーブルに足などを引っ掛け、AeroDR パネルを人体および患畜に落としたりしないように注意すること。
 - ・壁に設置された AeroDR クレードルに手や腰をかけたり、寄りかからないこと。
 - ・充電中の AeroDR パネルは撮影に使用しないこと。
 - ・AeroDR 回診車 RF ユニット、AeroDR 回診車 UF ユニットの人体に落としたりしないように注意すること。
 - ・AeroDR 回診車 RF ユニット、AeroDR 回診車 UF ユニットの電源ケーブルをつなげた状態や充電中は使用しないこと。
- (7) AeroDR I/F ケーブル、AeroDR I/F ケーブル 2、AeroDR UF ケーブル、パネル充電ケーブルは磁石の力で AeroDR パネルと接続しているため、AeroDR パネルを移動する場合はケーブルで操作せず、必ず AeroDR パネルを持つこと。また、AeroDR パネルを持って強く引っ張らないこと。
- (8) 万一、煙、臭気、異音などが生じた場合、そのまま使用すると火災の原因となるため、直ちに電源スイッチをオフにして電源プラグをコンセントから抜き、最寄の弊社サービス窓口へ連絡すること。
- (9) 火災、感電、漏電を防ぐため、次のことに注意すること。
- ・電源ケーブルなどケーブル類は指定のものを使用すること。
 - ・電源は定格のコンセントを使用すること。
 - ・電源プラグとコンセントにぐらつきがなく取り付け、正しく接続されていることを確認すること。
 - ・アースを備えた電源を使用すること。
 - ・長時間使用しない場合は電源プラグを抜いておくこと。
 - ・付属の電源ケーブル、AC アダプター充電器は本装置専用のため、ほかで使用しないこと。
 - ・水などの液体がかからないようにすること。
 - ・金属片や針金などの異物が内部に入らないようにすること。
 - ・金属または導電性の物体を AeroDR I/F ケーブル、AeroDR I/F ケーブル 2、AeroDR UF ケーブル、AeroDR クレードル 2、パネル充電ケーブルのスプリングコネクター部に接触させないこと。
 - ・ぬれた手で電源プラグを持たないこと。
 - ・電源プラグ、AeroDR I/F ケーブル、AeroDR I/F ケーブル 2、AeroDR UF ケーブル、AeroDR クレードル 2、パネル充電ケーブルにゴミやほこりを付着させないこと。
 - ・延長コードを使用しないこと。
 - ・たこ足配線にしないこと。
 - ・電源ケーブル、AC アダプター、AeroDR I/F ケーブル、AeroDR UF ケーブル、パネル充電ケーブルを損傷させないこと。また、損傷したケーブルは使用しないこと。
 - ・換気口をふさがないこと。
 - ・AeroDR 回診車ユニット用バッテリーのコネクターを金属などで接続しないこと。
 - ・AeroDR 回診車ユニット用バッテリーをネックレス、ヘアピン、コイン、鍵などの金属と一緒に持ち運んだり、保管しないこと。
- (10) 筐体の変形、ヒビなど外観上の異常がある場合は、直ちに使用を中止し、弊社サービス窓口へ連絡すること。
- (11) AeroDR パネルの登録は、使用する画像処理コントローラーと対応する、AeroDR ボックス、AeroDR ボックス 2、AeroDR バッテリーチャージングユニット、AeroDR クレードル、AeroDR クレードル 2、AeroDR ポータブル RF ユニット 2 で行うこと
- (12) AeroDR 回診車 RF ユニット、AeroDR 回診車 UF ユニットのブザーが鳴った場合(パワーLED オレンジが点滅した場合は)、すぐに撮影を中断して AeroDR 回診車ユニット用バッテリーを充電すること。
- (13) AeroDR 回診車ユニット用バッテリーを直射日光の当たる場所、炎天下駐車車の車内など、高い温度になる場所に放置しないこと。
- (14) AeroDR 回診車ユニット用バッテリーは消耗品のため、AeroDR 回診車 RF ユニット、AeroDR UF ユニットの使用時間が短くなったときは、新しい AeroDR 回診車ユニット用バッテリーと交換すること。
- (15) AeroDR 回診車ユニット用バッテリーは発熱、破裂、発火を防ぐため、次のことに注意すること。
- ・ストーブなどの熱源のそばに放置しないこと。
 - ・高所からの落下など強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないこと。
 - ・釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないこと。
 - ・充電には指定された充電器を使用すること。
- (16) 本装置を使用するときは次のことに注意すること。
- ・近くで高周波治療器、携帯電話、ポケットベルなど電磁波を発生する機器を使用しないこと。
 - ・仕様の環境条件で使用すること。そうでない場合は、性能の劣化、動作不良を生じる可能性があるため注意すること。
 - ・AeroDR 2 1417SA は AeroDR クレードルで充電できないため注意すること。
 - ・撮影中は、AeroDR 回診車 UF パネル充電キットによる AeroDR パネルの充電は行わないこと。
- (17) AeroDR パネルを使用するときは次のことに注意すること。
- ・AeroDR パネルは平坦な台の上で使用すること。斜めに置いた状態などで荷重をかけると、内部のセンサーが破損する恐れがある。
 - ・ポジショニングで患畜を AeroDR パネルの上に降ろすときはゆっくりと降ろすこと。
 - ・患畜の下に AeroDR パネルを入れて撮影を行うときは AeroDR パネルの抜き差しをゆっくりと行うこと。
 - ・ストレッチャーなど局部的に荷重が加わる撮影のときは推奨するアダプターを使用すること。
 - ・患畜の体液、薬品、水などをかけたり、浸したりすると外装の隙間から浸入して、故障する恐れがあります。患畜の体液、薬品、水などが浸入する可能性がある場合は、必ずゼニールなどで覆うこと。
 - ・AeroDR 2 1417SA は防水機能を備えているが、完全防水を保証するものではないため取扱いに注意すること。また、落とす、ぶつけるなどの強い衝撃や過大な荷重が加わると、防水性能が損なわれる原因となるため注意すること。
 - ・AeroDR パネルに配置されている 2 カ所の無線アンテナを人体、患畜、金属などで塞ぐと無線通信がつかない、切れる、通信速度が遅くなるなどの影響が出るので注意すること。
 - ・電源スイッチを押すと、グリーン、オレンジ、ブルーの各 LED が一時的に点灯または点滅をし、最後にグリーンのみゆっくりとした周期で点滅するようになる。各色とも一度は点灯または点滅することを確認すること。
 - ・AeroDR パネルのバッテリー容量は AeroDR パネルの標準的な使用方法において、耐用年数以上を見込んで設計されているが、必要に応じて新規のバッテリーに交換すること。
 - ・AeroDR クレードル 2 に装着したときに、ブザーがなることを確認すること。
 - ・AeroDR クレードル 2 に装着したときに、LED が充電状態になっていることを確認すること。
 - ・AeroDR クレードル、AeroDR クレードル 2 に装着するときに、手をはさまないように注意すること。
 - ・AeroDR パネルを AeroDR クレードル、AeroDR クレードル 2 に装着している場合は、AeroDR パネルに力が加わるなどで AeroDR クレードル、AeroDR クレードル 2 が転倒しないようにすること。
 - ・AeroDR パネルは精密機器のため、撮影および画像転送時に衝撃や振動を与えると、画像に影響を与える可能性があるため、撮影直後は、AeroDR パネルの取り扱いに注意すること。
 - ・AeroDR パネルはホットカーペットなど発熱体の近くに放置しないこと。
 - ・撮影した画像に影響を与えたり、ケガにつながる可能性があるため、AeroDR パネルをキズつけたり、変形させたりしないこと。
 - ・AeroDR 2 1417SA 破損の可能性があるため、鋭利なものを使用してスイッチを操作しないこと。
- (18) AeroDR I/F ケーブル、AeroDR I/F ケーブル 2、AeroDR UF ケーブル、パネル充電ケーブルの取扱いは次のことに

注意すること。

- ・コネクターハウジングを持って外すこと。
 - ・ドアなどにはさんだり、重い物を載せないこと。
 - ・極端に折り曲げたり、引っ張ったりしないこと。
 - ・ぐらつきがないように正しく AeroDR パネルに接続されていることを確認すること。
 - ・コネクターハウジングを逆向きに接続しないこと。
- (19) AeroDR クレードル、AeroDR クレードル 2 に座ったり足をかけたりしないこと。
- (20) AeroDR パネルが破損して蛍光体や鉛が露出した場合は、次のことに注意すること。
- ・直ちに使用を中止し、弊社サービス窓口へ連絡すること。
 - ・目に入ったときは、こすらずにすぐに流水で洗い流すこと。
 - ・飲み込んだときおよび目に入ったときは、すぐ応急処置をし、医師の診断を受けること。
 - ・皮膚に直接ついたときは、水で十分に洗い流すこと。
 - ・子供の手の届かないところで使用、保管すること。
- (21) AeroDR パネルで撮影を行うときは次のことに注意すること。
- ・画像処理コントローラーのディスプレイ上で撮影可能であることを確認してから曝射操作を行うこと。
 - ・弊社で確認済みの X 線撮影条件で撮影を行うこと。
 - ・指定されたグリッドを使用して撮影すること。
 - ・グリッドは指定された操作方法で使用すること。
 - ・プレビュー画像が表示されるまで AeroDR パネルに振動や衝撃を与えないこと。
- (22) Aero Sync モードで撮影する場合は次のことに注意すること。
- ・画像処理コントローラーのディスプレイ上で曝射可能状態であることを確認してから曝射操作を行うこと。
 - ・曝射開始操作後に画像処理コントローラーの確認音が鳴ることを確認すること。
 - ・プレビュー画像表示されるまで AeroDR パネルに振動や衝撃を与えないこと。
 - ・AeroDR パネルのバッテリー残量が十分であることを確認してから撮影を行うこと。
 - ・事前に確認されている撮影条件範囲で使用すること。
 - ・AeroDR 2 1417SA は、核医学検査実施後など患者の体内に放射性物質が残存している場合、X 線が照射されたと認識し、画像転送されることがあります。画像が転送された場合、画像処理コントローラーの X 線感度を[高感度]に変更してから撮影すること。
 - ・X 線感度を[高感度]に変更した場合は次の条件をすべて満たした状態で撮影すること。この条件以外で撮影した場合、画像を取得できない可能性があるため注意すること。
 - AeroDR パネルに直接 X 線が照射される領域(2cm×2cm 以上)を設けること。
 - AeroDR パネル全面に X 線を照射すること。
 - 管電流 140mA 以上、または管電圧 90kV 以上で照射すること。
- (23) 最大照射時間を 4.0、6.7、10.3 に設定する場合は、必ず最寄りの弊社サービス窓口にお問い合わせすること。
- (24) AeroDR 回診車 RF ユニット、AeroDR 回診車 UF ユニットを回診用 X 線装置に収納した状態で充電している場合は回診用 X 線装置を移動させないこと。
- (25) 本装置は、無線 LAN による通信機能を搭載しているため、本装置を使用する場合は、各国で定められた関連法規制に従うこと。
- (26) 不適切な使用は無線通信に障害を与える原因となるため注意すること。また、本装置を改造すると各国電波法の認可と保証が無効になるため注意すること。
- (27) 航空機内では、航空システムに影響を及ぼす可能性があるため、使用しないこと。
- (28) 周囲に影響を及ぼす可能性があるため、移動中は AeroDR 回診車 RF ユニット、AeroDR 回診車 UF ユニットの電源をオフにすること。
- (29) AeroDR パネル以外の本装置を移動する場合は次のことに注意すること。
- ・衝撃、振動を与えないこと。
 - ・電源をオフして完全に動作が止まるまで移動しないこと。
- (30) AeroDR クレードル、AeroDR クレードル 2 を机上に設置する場合は、次のことに注意すること。
- ・AeroDR パネルを装てんするときに負荷がかかるので、十分な耐荷重のある設置台に設置すること。
 - ・人が接触して落下しないように接地面は AeroDR クレードル、AeroDR クレードル 2 の床面積より広くすること。
 - ・水平で安定な面に設置すること。
 - ・表面がフッ素樹脂(加工)など滑りやすい材質の設置台は使用しないこと。
 - ・接続される電源ケーブルや配線は、足などが引っかからないように引き回すこと。
 - ・AeroDR パネルを装てんしやすいために設置すること。
 - ・AeroDR クレードルの背面の通気口をふさがないように設置すること。
- (31) 本装置を設置、移設する場合は、弊社または弊社指定の業者に連絡すること。
- (32) AeroDR ポータブル RF ユニット 2、AeroDR バッテリーチャージングユニットをキャリングケースに収納して輸送、使用するときは次のことに注意すること。
- ・保管・使用環境条件内で輸送、使用すること。
 - ・真夏または真冬に車中や屋外へ放置しないこと。
 - ・真夏または真冬に屋外で使用しないこと。
- (33) 真夏または真冬に屋外から屋内へ移動する場合は、キャリングケースを開けたときに結露しないように注意すること。

2. 不具合・有害事象に関する注意

- (1) X 線装置との接続は、弊社または弊社指定の業者のみが可能のため、弊社または弊社指定の業者に連絡すること。
- (2) 本装置を設置、保管する場合は次のことに注意すること。
- ・気圧、温度、湿度、風通し、日光、ほこり、塩分、イオンを含んだ空気などにより悪影響の生ずる場所に設置、保管しないこと。
 - ・安定しない、十分な換気ができない、明暗の差が大きい、電磁波が発生する、振動、衝撃が当たる場所に設置、保管しないこと。
 - ・化学薬品を使用、保管している場所に設置、保管しないこと。
 - ・本装置はあお向け、逆さまに設置しないこと。
 - ・AeroDR ボックス、AeroDR ボックス 2、AeroDR XG ボックスは重ねて設置しないこと。
- (3) AeroDR ボックス 2、AeroDR XG ボックス、AeroDR XG ボックス 2、AeroDR 回診車 RF ユニット、AeroDR ポータブル RF ユニット 2 は IEC60601 シリーズまたは同等の規格に適合した X 線装置に接続すること。

3. その他の注意

- (1) 本装置本体、付属品、別売品、消耗品、メディア、梱包材を廃棄する際は、廃棄物処理法(廃棄物の処理および清掃に関する法律)に従い、許可を得た産業廃棄物処理業者に廃棄を依頼してください。なお、廃棄方法については、地方自治体の定める条例・規則に従ってください。パーソナルコンピューター、ディスプレイ、二次電池などは、「資源の有効な利用の促進に関する法律」に従い回収、リサイクルが行われています。法令や条例にのっとり適切にリサイクルをお願いします。

各注意の詳細は、取扱説明書を参照のこと

【貯蔵、保管方法および使用期間など】

1. 保管・設置環境

- (1) 不具合・有害事象に関する注意に記載されている設置・保管環境を守ること。

2. 保管・使用環境条件

- (1) 動作時 温度：10～30℃
湿度：35～80%（ただし結露なきこと）
- (2) 非動作時 温度：-10～40℃
湿度：20～90%（ただし結露なきこと）
- (3) 保管時 温度：-20～50℃
/輸送時 湿度：20～90%（ただし結露なきこと）

※保管時の性能保証期間は梱包後 6 ヶ月。

※AeroDR バッテリーチャージングユニット、AeroDR 回診車 RF ユニット、AeroDR ポータブル RF ユニット、AeroDR 回診車 UF ユニット、AeroDR 回診車 UF ユニット用 PCD、AeroDR 回診車ユニット用バッテリーおよびこれらの製品に付属するオプションの保管時温度は -20～60℃。

3. 耐用期間

耐用期間は使用上の注意を守り、指定された保守・点検を実施した場合に限り 6 年間です（自己認証<当社データ>による）。

ただし、画像処理コントローラーの耐用期間は 5 年間です。また、耐用期間は使用条件、使用環境により差異を生じることがあります。

装置構成部品の中にはモデルチェンジのサイクルが短い一般市販部品があり、耐用期間内であってもサービスパーツが供給できなくなる場合があります。

また、モデルチェンジ時の互換性を維持するために、関連する構成部品を交換する必要が生じる場合があります。

【保守・点検に係る事項】

- (1) 本装置の使用・保守の管理責任は使用者側にある。
- (2) 定期的に保守・点検を行うこと。また、ユーザー定期点検を実施するほかに、サービスエンジニアによる定期点検が必要なため注意すること。
- (3) 体液などの汚れがある場合は、消毒清掃すること。
- (4) 清掃、点検は本装置の電源をオフにし、電源プラグをコンセントから抜いて行うこと。
- (5) AeroDR パネルおよび本装置を消毒する場合は次のことに注意すること。
 - ・消毒に使用する消毒液は消毒用エタノール、消毒用イソプロパノール、または市販の塩素系漂白剤、0.5%次亜塩素酸塩（家庭用漂白剤を 10 倍に希釈したもの）を使用すること。ただし、漂白剤、次亜塩素酸塩は腐食性があるので、腐食を避けるために漂白剤をよくふき取ること。
 - ・消毒液を AeroDR パネルに直接かけたり、スプレーで噴きかけたりすると、外装の隙間から浸入して、AeroDR パネルが故障する恐れがあるため、糸くずの出ないやわらかい布に消毒液を含ませ十分に絞ったあと、使用すること。有線接続コネクタ部、LED には消毒液がかからないように清掃すること。
 - ・消毒液は化学薬品のため、薬品メーカーの取扱注意事項を守ること。
- (6) AeroDR パネルを長時間使用しない場合でも、1 カ月に一度はフル充電を行うこと。
- (7) AeroDR 回診車 RF ユニット、AeroDR 回診車 UF ユニットの長時間使用しない場合は AeroDR 回診車ユニット用バッテリーを取り外すこと。
- (8) 使用者による保守・点検項目

項目	点検頻度
AeroDR パネル、AeroDR バッテリーチャージングユニット、AeroDR 回診車 RF ユニット、AeroDR ポータブル RF ユニット、AeroDR 回診車 UF ユニットの外部損傷の有無確認	1 週間

診車 UF ユニットの表面の汚れの有無確認と清掃	
AeroDR パネル、AeroDR バッテリーチャージングユニット、AeroDR 回診車 RF ユニット、AeroDR ポータブル RF ユニット、AeroDR 回診車 UF ユニットの外部損傷の有無確認	1 週間
AeroDR I/F ケーブル、AeroDR I/F ケーブル 2、AeroDR UF ケーブル、のスプリングコネクタ部の清掃	1 週間
AeroDR パネル、AeroDR UF ケーブルのパッド部の清掃	1 週間
AeroDR クレードル、AeroDR クレードル 2 の清掃	1 週間
AeroDR パネル、AeroDR 回診車ユニット用バッテリーのフル充電	1 カ月
キャリブレーション	3 カ月、またはメッセージが表示されたとき

【包装】

- ・AeroDR パネル一式
- ・パーソナルコンピューター(キーボード、マウス含む)一式
- ・ディスプレイ一式
- ・AeroDR ボックス一式
- ・AeroDR ボックス 2 一式
- ・AeroDR バッテリーチャージングユニット一式
- ・AeroDR バッテリーチャージ AC アダプター一式
- ・AeroDR XG ボックス一式
- ・AeroDR XG ボックス 2 一式
- ・AeroDR AC アダプターキット一式
- ・インターフェースボード一式
- ・AeroDR クレードル一式
- ・AeroDR クレードル 2 一式
- ・AeroDR アクセスポイント一式
- ・AeroDR I/F ケーブル一式
- ・AeroDR I/F ケーブル 2 一式
- ・AeroDR UF ケーブル一式
- ・AeroDR 回診車 RF ユニット一式
- ・AeroDR ポータブル RF ユニット一式
- ・AeroDR ポータブル AC アダプター一式
- ・AeroDR バッテリーチャージングキット一式
- ・AeroDR 回診車 UF ユニット一式
- ・AeroDR 回診車 UF ユニット用 PCD 一式
- ・AeroDR 回診車ユニット用バッテリー一式

【製造販売業者および製造業者の氏名又は名称および住所等】

製造販売業者 コニカミノルタ株式会社
 住 所 〒191-8511 東京都日野市さくら町 1 番地
 電 話 番 号 042-589-8421

取扱説明書を必ずご参照ください。